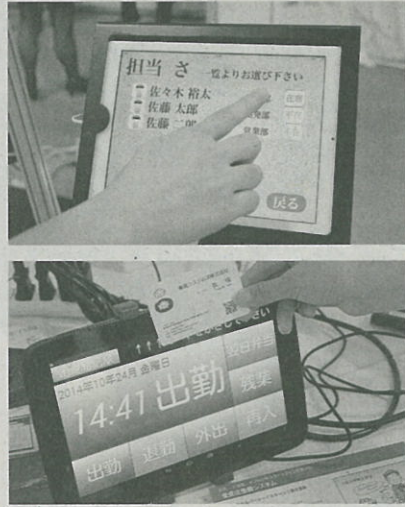


# タブレット使い安価に

## 無人受付や出退勤管理



新潟県内のソフト開発会社が、アップルのiPadなど汎用的なタブレット(多機能携帯端末)を使った業務用システムを相次ぎ開発した。アイビーシステム(新潟市、若桑茂社長)は無人受付、奏風システムズ(新潟市、赤塚剛社長)は出退勤管理システムを開発。専用端末の導入に比べてコストを抑えられるのが特徴。大がかりなシステムを導入せずに業務を効率化したい、社員数が数十人程度の中小企業を対象に売り込む。

## 県内のソフト開発会社 中小企業に売り込み

アイビーシステムはiPadを使った無人受付システムを開発した。受付で画面に表示された人

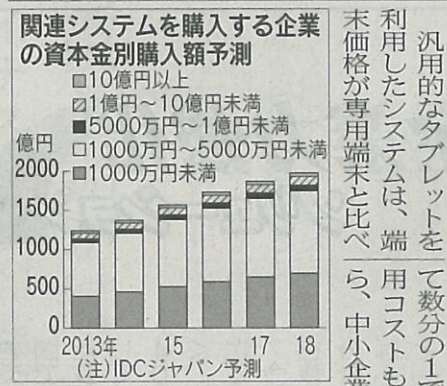
を呼び出すと、呼び出した人の社内パソコンに音声などで呼び出し通知をする。社内で無線LANを利用しているスマートフォン(スマホ)などにも通知する仕組みも開発中だ。導入価格は通知可能な端末が10台の場合で約30万円から、50台規模で約50万円になる。電話内線で同様の仕組みを構築すると、構内交換機(PBX)の変更だけで100万円以上かかることが多い。そのため、割安だとしている。

奏風システムズは、非接触型ICカードと、米グーグルの基本ソフト(OS)アンドロイドを搭載したタブレットを組み合わせて使う出退勤シ

ステムを開発した。出退勤や外出など、端末の画面に表示された選択肢を選択し、個人情報登録したICカードを端末に近づければ、出退勤時間などを自動登録する。記録したデータはタブレットから社内外のサーバーなどに送信する。近距離通信規格「NFC」に対応した端末を利用、タブレットをICカードリーダーとして使う。導入費用はセットアップ込みで32万円からになる。

## 低コスト強み 中小向け、主力市場に

汎用的なタブレットを利用して数分の1で、導入・運用コストも安いことから、中小企業を中心に利用が広がっている。調査会社のIDCジャパン(東京・千代田)によれば、タブレットを利用した



り数百円課金するクラウド型の出勤管理システムもあるが、社内事情に合わせた仕様にしにくいことが多い。奏風システムズの仕組みは顧客の要望に応じた仕様にできる上、社内での給与システムと接続するなど、他の社内システムとの連携ができる利点がある。

調査会社は、この割合は、同社の予測では、購入額が1973億円まで拡大する2018年までほぼ変わらずに推移する見込みだ。